

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200454		
法人名	株式会社福村屋		
事業所名	グループホーム花びよりかいぞう		
所在地	三重県四日市市野田2丁目6-12		
自己評価作成日	令和2年 3月30日	評価結果市町提出日	令和2年5月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2490200454-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 4 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○当施設では、2ユニットで共有出来る素晴らしい中庭があり、利用者様一人一人がベンチに座って会話を楽しんだり、散歩したり・その都度の季節の花を見たりして過ごされています。また、外出企画(買い物や外食等)も定期的に入所様と考えて外出を行っています。
○ホール内の壁紙や作品作りを職員と入所者様と一緒に作り、作品を飾り季節感を感じて頂いております。
○自治会との連携も取れており、運営推進会議の時は、必ず地区の公会所の方を利用させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

両ユニットのくつろぎのスペースである食堂兼居間(ホール)から出入りできる中庭には、花や木が散歩道を作るように植えてあり、天気の良い日は日光浴や散歩を楽しんでいる。法人のグループの一つが北勢市場に出入りしており、その関係で毎日新鮮な旬の野菜が届く。美味しい料理の提供を事業所の大きな特徴に位置づけており、おやつ作りを含め利用者も手伝っての楽しい食事になっている。地域の自治会やボランティアとの連携もできつつあり、近隣の保育園との交流も始まっている。まだ設立1年目の真新しい事業所ではあるが、利用者と共に地域の輪を少しずつ広げようと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を当事業所なりに理解し作り上げています。ミーティングの時などに全員で読み上げ共有しています。年に3回ある個人面談の時も理念の事を通して実践に繋げているかを聞かせて頂いています。	企業理念とは別に、開設当初の職員みんなで考えた「その人らしくを大切に…」という理念を玄関にも掲げ、ミーティングでも事業所の夢であり目標でもあるとして、やさしい言葉で説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出行事等で積極的に地域に出掛けています。そのお陰で、近所の喫茶店や近くの保育園の園児達とも交流がありましたので、これからも利用者様と一緒に少しずつ地域の輪を広げていきたいと思えます。	近隣の散歩や喫茶店に出掛けたり、近くの保育園には事業所のイベントに招待したりと、積極的に付き合い範囲を広げる努力をしている。大正琴や太鼓、腹話術などボランティアとの付き合いも出来てきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社外・社内研修で認知症に関する知識を身につけている。そこで学んだ事を運営推進会議で認知症の勉強会を行い、理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・ケアマネ・市介護保険課・北包括支援センター職員・入居者様の家族様と多くの方が出席して頂いています。事業所の動向や議題を決めて話し合いをしています。	本年は感染症コロナの関係で6回開催できなかったが、行政や地域の自治会、民生委員、家族等多数の参加を得て開催している。現在は事業所からの報告が主になっているが、防災はじめ各種行事についても考慮中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員さんが事業所に来所する事が少ない為定期的に市役所に訪問し、意見交換などを行い関係を築いています。	管理者自ら市役所を訪問することが多い。書類など手渡しすることが多く、気軽に情報交換ができています。気分が悪く不穏気味の利用者を、気分転換に市役所に伴ったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では、身体拘束の研修を行い、職員会議でも3カ月に1回、身体拘束等適正委員会を設けて全職員が理解をしている。利用者様への言葉の掛け方にも日々気を付けています。	転倒防止のためセンサーマットは敷いているが、極力居室に一人にしないようにしている。利用者は皆穏やかで拘束要否の検討対象者はいない。身体拘束適正委員会もあり研修もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議や職員会議などで虐待防止について意見交換を行っています。常に虐待が無いように注意を払い、虐待防止をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の制度を利用している入居者様はいませんが、運営推進会議の時に行政書士の先生をお呼びして後見制度について、家族様と一緒に勉強会を行い、そこで勉強した事を職員会議で報告しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの趣旨を知って頂く為に契約時には、丁寧に説明を行っている。契約に関しての苦情は無く、スムーズに契約を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者様の担当を決め、毎月2回は往診の結果などを報告したり、また運営推進会議に出席して頂き意見交換をしています。これからも年1回の家族会の開催を継続していき、様々な意見交換をしていきたいです。	家族とは信頼関係が大切と、日頃の面会時はもちろん運営推進会議や家族会にも出席してもらい意見交換している。「墓参りに連れて行ってよいか」等、気軽に話しかけられる関係づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にミーティング時に意見交換をしている。また申し送り時など日常的に話し合いを持ったり、個別で話し合いの時間を設け、話しやすい環境づくりをしている。	ユニット会議や職員全員の会議で意見交換しているが、個別でも「ちょっと良いですか」と気軽に意見や提案を受けている。人間関係に関する意見もあり、2ヶ月に1回は親睦会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員との打ち合わせを細めに行い、職員個々の勤務状況を把握し、各自向上心を持って仕事に取り組めるように支援しています。そして、7月・12月・3月と年に3回職員面談も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングでの話し合いや、社内・社外研修に積極的に参加する事でレベルアップを図っている。また他事業所との意見交換を行い、それを職員に伝え当事業所の問題を再確認し、全員で直す取り組みを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会や、研修に参加した時に意見交換などを行っています。また他事業所に訪問する事も少しずつ多くなってきているので、そこで良いと思った事などは、後日職員会議で話し合い取り入れるなどしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談を行い、生活状況や本人様の希望を聞いて安心して入居出来るように努めている。入居時には全職員が状況を把握し、不安を少しでも取り除き入居に繋げています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や見学に来て頂いた時に、本人様や家族様の希望を聞いている。入居される際に、本人様を家族様と共に支援していく事を伝え信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の状況・意見を把握し、他のサービスが必要と判断した場合は、本人様・家族様と話し合いを行いサービス利用の助言等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様を人生の先輩として物事の見方、考え方を学びながら共に笑い共に楽しむ事を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様へより良い支援が行えるように、行事の参加や近況報告を行っています。訪問時にも十分なコミュニケーションを取っており、協力関係が円滑に行える様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで自宅付近まで行き、利用者様の思い出話を話して頂いたり、施設に送ってくださるハガキやお手紙のお返事を利用者様と一緒に書いております。また、電話連絡出来る機会なども設けております。	友人・知人が多く、葉書や手紙・電話とやり取りが多い。また家族とはお墓参りをはじめ外食やお正月など外泊することもある。外出行事のついでに実家の近くへ寄ることも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人の性格・特徴を把握した上で座席の位置を考え、利用者様同士が楽しく会話できる場を提供し、良い雰囲気ของกลุ่มの輪が出来るよう関係作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も必ず様子を伺いに行っております。また、担当者への情報提供も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人様の思いや意向を確認し、モニタリングの際には家族様からも希望を聞きプランを反映している。本人様の言葉で確認が困難な場合は家族様と話し合い、本人様にとって必要な支援を検討しています。	日常生活の中で寄り添い、唄を歌ったりしているときや手づくり工作、おやつ作りなど気持ちがアップしているときに聞き出す努力をしている。食べたいものや行きたいところなどの希望が出たときはユニット会議で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	歌が好きの方、散歩が好きの方、ボール遊びが好きの方、お世話好きの方等これまでの利用者様の習慣などを本人様含め、ご家族様や知り合いの方からなどにお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの利用者様の生活歴や、性格・特徴は勿論の事、日常の過ごし方をよく観察し、個別記録に記入する事で現状の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回、モニタリングを行い、その結果をミーティングにかけ、3カ月毎の介護計画書の見直しに反映している。計画作成担当者は、家族・必要であれば医師の意見も聴き、作成しています。	具体的な援助内容が書いてある「ケアプラン一覧表」があり、毎週担当者がチェックする。その結果を職員会議にかけ3ヶ月毎の介護計画書に反映している。利用者一人ひとりに担当職員が決められており、きめ細かい支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は、状況が把握出来るような記入方法を指示しています。気付いた事・特変などがあった場合は、必ず細かく記入し職員が目を通し全員が情報を共有出来るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院等、本人様・家族様の状況に応じ臨機応変に対応している。また季節に応じた企画やお盆のお墓参りや仏壇参り等の希望に即した外出支援などもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設では、己書・マジック・ミュージックベル等さまざまなボランティア様の受け入れをしています。利用者様一人一人が楽しむ事が出来る環境作りを心掛けております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医がかかりつけ医になる了承を得ている。そして、内科胃腸科か精神科のどちらかを主治医にするかその時に家族様に決めて頂いております。月2回の往診や、夜間を含め24時間対応で変化に備えている。	契約時に本人・家族の意向を確認しており、全員が協力医をかかりつけ医としている。訪問診療もあり24時間対応もある。また歯科医も訪問診療してもらえ。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内に看護師の資格を持っている者がいませんが、毎週金曜日に訪問看護の方が来てくださります。普段から、細かい事なども連絡をして連携を取っており、入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人様に関する情報提供を行い家族様と連携しています。必ずお見舞いにも行き、利用者様の回復状態を把握し、退院に向けての支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期までの対応実績はありませんが、少しでも利用者様に変化があった場合は、すぐに家族様に報告・連絡をしております。当施設は、主治医訪問・看護と連携し、看取りをさせていただきます。重度化した場合は、同じ系列の特養の方で対応していく方針です。	契約時に医療行為は出来ないが、看取りは出来ると家族に話している。重度化したときは同じ系列に特養があることも家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の状態等については日々の申し送りやミーティングを通じて把握している。急変が起きた場合の対処方法も緊急マニュアルを用いて日々話し合いを行い、急変や事故発生に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練は年2回行っており、避難場所は地域の公会所となっております。地域の自治会の方とも普段から連絡を取っており、連絡体制の方は整っております。	年に2回、昼と夜の避難訓練をしている。事業所の横に川があり、昨年の大雨のとき溢れる経験もした。避難場所や自治会との連携もつけているが、今後も訓練を重ねて行く。	東南海地震が高い確率で予想されている。昼間なら職員数も多く落ち着いた対応も可能だが、夜間は2名の職員しかおらず対応が難しい。職員2人でどのような対応が出来るか検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を傷つけないように、プライバシーを損ねない声掛けや対応を基本としている。主に排泄・入浴介助には人格を尊重し、声掛けやケアに気を付けて支援を行っています。	接遇や言葉づかいに関する研修は、年間研修計画にあり、職員全員が勉強しているが、つい「…あかん」などの言葉が出たときは管理者が注意している。また利用者の部屋には花や木の名前がついており、プライバシーを損ねる恐れのあるときは苗字を使用せず部屋の名前を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様一人一人に合わせた支援を行い、表情の読み取りや自己決定が出来る等工夫をしている。意思疎通が出来ない方への対応も考慮し、一人の職員で上手くいかない場合は交代を行う等支援を行い、職員間の連携も取れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせ、強制するのではなく、本人様の希望や気持ちを優先し、体調にも考慮し、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問理容の方が来られ、なるべく自分で欲しい髪型を理容師さんに伝えられるように支援させて頂く。起床時などに自分で好みの衣服を選べる利用者様には、選んで頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	狭いキッチンながらも、利用者様の出来る範囲でお手伝いを(洗い物・後片付け・皮むき・盛り付け)などをして頂く。	四日市市の北勢市場に法人グループが入っており、毎日新鮮で安全な野菜の調達ができるので、美味しい料理を作ることも事業所の特徴になっている。食事作りやおやつづくりに利用者も参加しており、エプロン姿の利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ユニットごとに調理師免許を持っている職員がいる為、その方に栄養バランスが取れた献立を作って頂き、管理して頂いています。水分摂取量はバイタルチェック表で管理している。1日1600ccを基準に確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様1人1人にさりげない声掛けを行い毎食後、歯磨きを行っています。義歯の方には、必ずポリドントにて洗浄消毒を行うように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、一人一人の排泄パターンによる声掛け誘導で自立支援を行っている。排泄チェック表を確認し、尿意の無い方も声掛けを行い自立支援を促している。チェック表は体調管理にも役立っています。	介護度5の方を除いて他の方全員が排泄チェック表に基づく声掛け誘導で、トイレでの自立排泄である。当初リハビリパンツの方が支援努力により布パンツになり喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝乳酸菌飲料を飲んだり、定期的におやつでヨーグルトを召し上がって頂いています。また、毎日体操に参加して貰う事で運動不足も解消している。個々の排泄を毎日把握し、対処方法も主治医と相談し支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状態や状況に合わせてゆっくりと落ち着いて入浴出来るようにしています。入浴拒否の利用者様でも声掛けや時間をずらす等して工夫しております。	お風呂は毎日沸かしており、週3回午前中に入浴している。唄を歌いながら入ったり、入浴剤で色や匂いを変えて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節感と利用者様一人一人の状態・状況を考え(寝具・温度・衣服等)支援しています。安心して眠れるように、自宅で愛用していた枕や毛布などを家族様に持参して貰うなど、個々にあった方法でしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬の管理は、すべて薬局さんをお願いしております。服薬時は、必ず職員間で声掛けを行い服薬するようにしています。最後まで服薬したか見守るように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が自ら進んで台拭きやおぼん・お箸を並べる光景があり、職員が掃除などを行っている利用者様から掃除道具の場所を聞かれたり、お手伝いを行う場面があり、自主行動を尊重しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、中庭に出てベンチに座って雑談して頂いたり、外に散歩に出掛け少しでも季節感を感じられるように支援しています。買い物・ドライブ・外食などで外出する支援を行っています。	車の多い道路から一本中に入っており、事業所周辺は散歩道に適している。両ユニットから直接出られる中庭は花や木が植えてあり気分転換の散歩に適している。年間行事予定があり、ドライブがてら出かけたり買い物や外食も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人一人に自分の財布があり、外出行事で買い物に出掛けた際は、ご自分の財布からご本人が支払い出来るように、職員がそばにつき支援をさせて頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様には、毎月請求書と一緒に郵便物を同封しており、家族様にメッセージを書ける利用者様は、書いて頂き、書けない方は利用者様の話を聞いて代筆させて頂く。家族様に電話をしたい方は、連絡して頂き、会話を楽しんで頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を展示したり、外出の際や中庭に行った時に花などを持ち帰り、飾る事により入居者様に季節感を感じて頂くようにする。	食堂兼居間のホールは広く、中庭に面した大きな窓があり明るい。壁面には利用者の作品や行事写真だけでなく、落ち着いた癒しを感じる絵画が掲示してあり、しっとりした雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファなどを配置し、一人になられたり気の合う方とおしゃべりを楽しんで頂いています。仲の良い関係を職員は把握しており、話しやすい席などの配慮をしています。交流スペースを使い思い思いに過ごされる方もおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様にとって安心した居心地よい居室となるよう、ご自宅で馴染みのあった畳・椅子・机等配置、行動スペースを確保し安全も配慮して生活されている。家族の写真や、お気に入りの人形なども飾って頂く。	利用者の名札は小さくし、部屋の名前として花や木の名前を大きく付けているので、プライバシーを配慮した時は「かえでさん」とか「つつじさん」とか呼んだりしている。室内にはテーブル・リラックスできる椅子・テレビ・タンスをはじめ壁には写真やカレンダーが掛けてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人の力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や個人の歩行器などの置き場所にも配慮している。歯磨きセットや洗剤などの置き場も随時検討し、安全な環境作りに心がけています。		